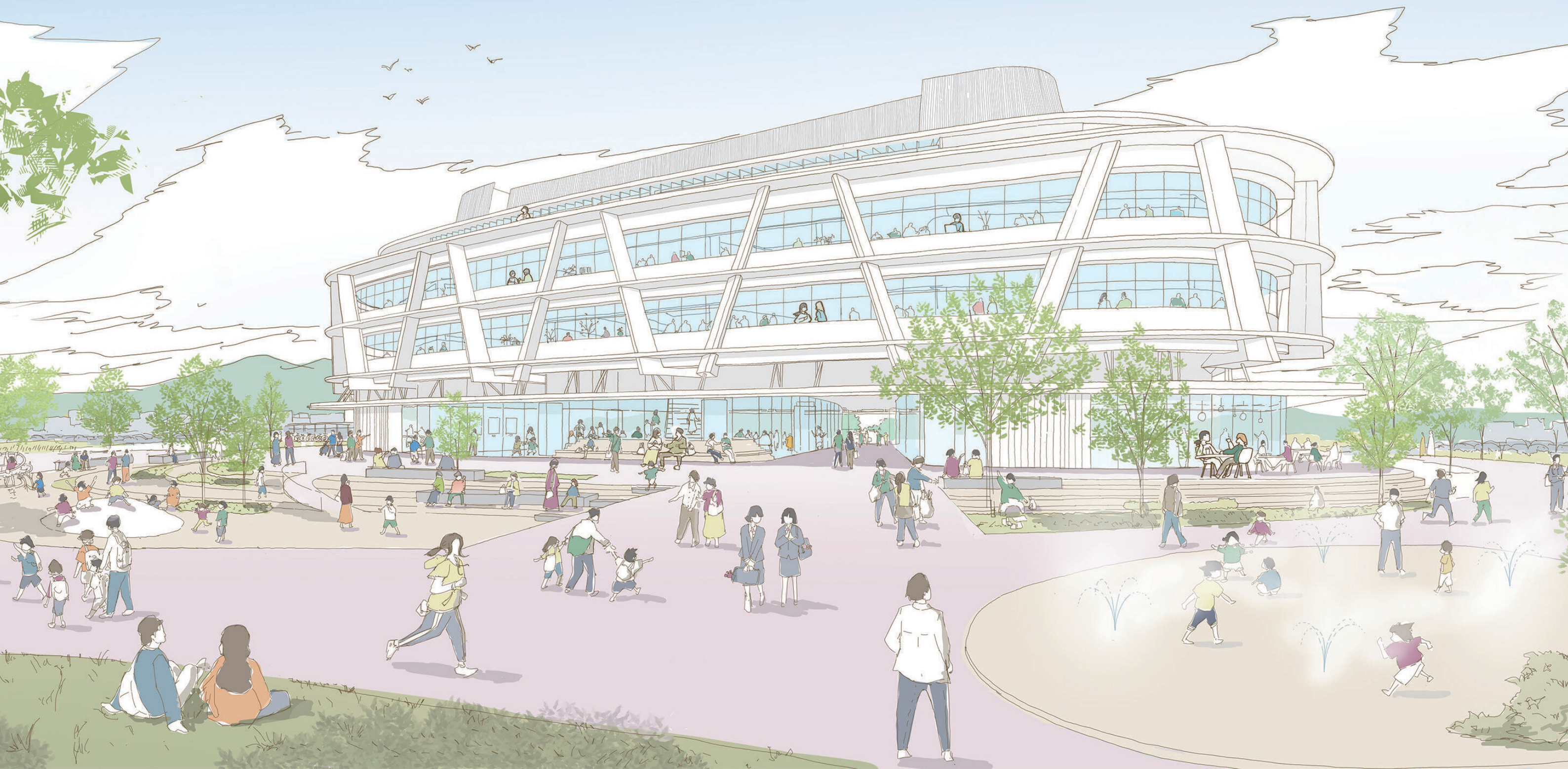


富士見市 新庁舎建設 基本設計説明書

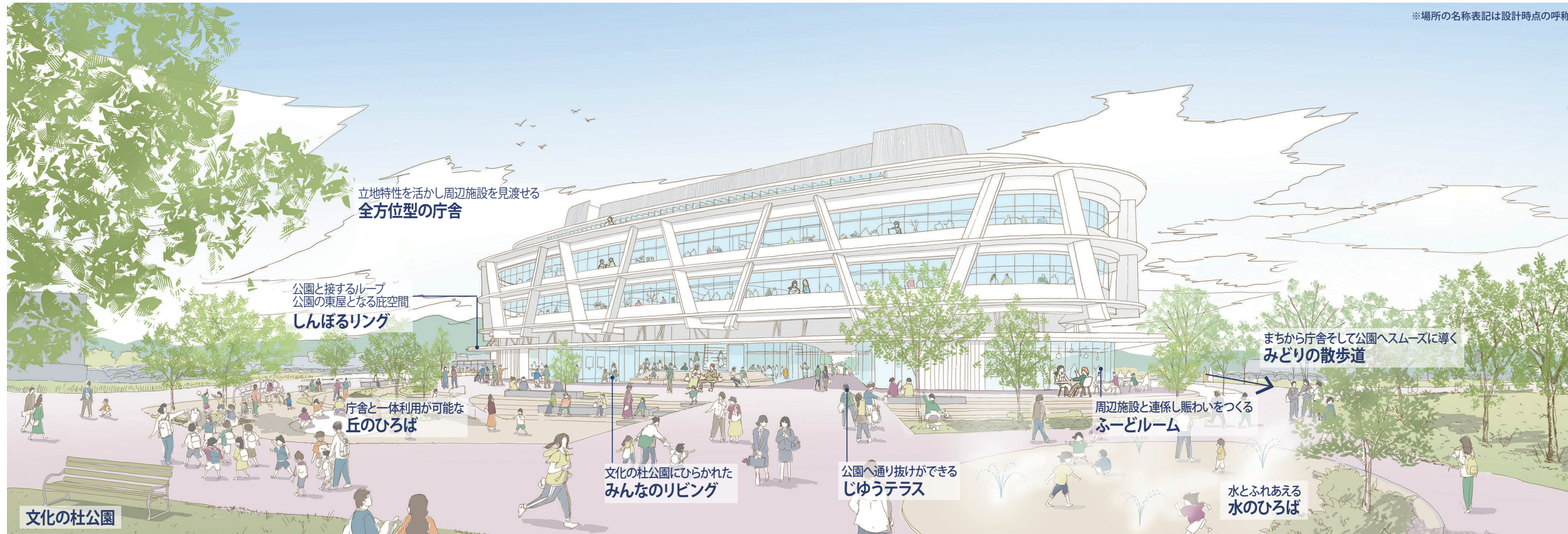


富士見市に住む人たちにとって
親しみやすく
市民のみなさんと職員が
まち全体を見渡して
まちのことを考えていける
愛着を持てる庁舎をつくります



富士見市の未来へつなぐ、まちと共にある庁舎をつくります

※場所の名称表記は設計時点の呼称



基本方針で定める5つの整備方針に基づく5つの視点

方針1 だれもが利用しやすく開かれた庁舎

市民サービスと市民協働・交流の視点

1 市民交流を促す

行政手続きのためだけの庁舎から、市民活動の場として多様なつながりを生み出し、市民と職員が協働・交流・発信する、開かれた庁舎へ

方針2 スマートで働きやすい庁舎

将来対応・ニューノーマルの視点

2 将来の変化に備える

将来の変化にも柔軟に対応できるフラットな場は、活動が流動的に連鎖し新たな価値を生み出す、多様な働き方で職員が活躍するワークフィールドとなる庁舎へ

方針3 安全で安心な庁舎

あらゆる災害を想定した防災の視点

3 まちに安心を与える

いつ起こるかわからない災害に備え、大地震や記録的な豪雨による水害など大規模災害時にも機能維持が可能な、防災の拠点施設となるノンダウン庁舎へ

方針4 環境にやさしく経済的な庁舎

脱炭素社会へ向けた環境対応の視点

4 まちの環境をリードする

目に見える「エンボイデッドカーボンの削減」から目に見えない「オペレーションカーボンの削減」まで脱炭素社会へ向けた環境配慮型の庁舎へ

方針5 富士見市らしく親しまれる庁舎

魅力あるまちづくりへの貢献の視点

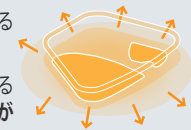
5 まちを連係させる

全方位型である庁舎が周辺施設と連係することで、まちの活気を生み出し、次世代につながるまちの魅力を醸成する庁舎へ

市民と職員が共につくる まちのリビングとなる庁舎

施設全体が市の活動を発信できる場となる「まちのリビング」となる庁舎とします。

市民と職員の垣根を超えた協働や交流の場となる「みんなのリビング」を中心に、主体的な活動が展開される場となります。



協働・交流・発信の場となる建築

時代の変化と共に歩める フラットなワークフィールドとなる庁舎

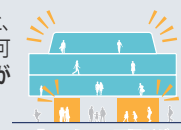
変化・更新を続けられる持続可能な、すべての場所がフラットなワークフィールドとなる庁舎とします。DX化を見据えた業務のスマート化に対応できる柔軟性と冗長性をもつ、多様性を体現した建築とします。



多様性を体現したフラットな建築

「いつも」と「もしも」に活躍する フェーズフリーな庁舎

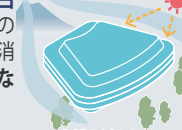
地震や水害に対する確実な安全性確保のもと、災害時の機能維持と共に、機能転換・拡張が可能な庁舎とします。「いつも」のみんなの居場所が「もしも」の時の備えとなります。



「いつも」の居場所が「もしも」の備えになる建築

脱炭素へ向けた、 自然と共にあるエコスマートな庁舎

ZEB Readyを実現し、建物ハードと運用などのソフトの排出量削減対策と共に、エネルギー消費量の徹底的な削減策により、エコスマートな庁舎とします。



自然を活かし、自然を感じるエコスマートな建築

まちの活気をつなげる 市民が主役のシビックセンターとなる庁舎

市民が集まり、活気ある姿が、富士見市の魅力的な風景として浮かびあがり、まちの憩いの場所の一つとしてまちづくりに参加できる市民が主役となる庁舎をつくります。



まちにひらかれ、まちとつながる、まちと共にある建築

まちの魅力を向上させる「まちのシンボル」

立地特性を活かし、まちとのつながり、公園と隣接するなかでの施設のあり方を追求した庁舎とします。

周辺施設と連係し、市民の賑わいが連鎖する環境をつくることで、今まで以上にこのエリア全体の魅力を向上させる、まちの賑わいに資する「まちのシンボル」をつくります。



富士見市の未来へつなぐ庁舎のあり方

1F まちのみんなで 集い・つかう場

- 市民の活動メッセージの発信の場（市民活動を支える交流空間）
- 多世代が交流できる場
- 市民が手を加えながら変化、進化していく場
- 人を呼び込む“まち”の中心となる場
- みんながいつでも、気軽に利用できる場
- 安心・安全・快適な場



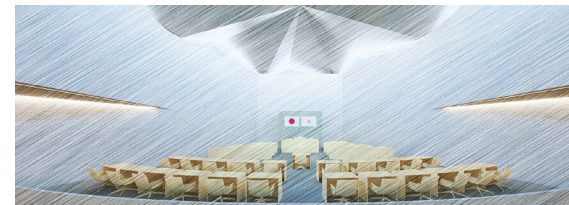
2-3F まちについて 考え・つくりあげる場

- 600人の職員の活動の連携を促進させる2フロア構成の執務空間
- 吹抜けや階段により光、風、人の流れが生まれるつくり
- DX化によるニーズの変化に柔軟に対応できる大きな平面
- ミーティングやABW、昼食等、多様な使い方ができる窓周リスペース

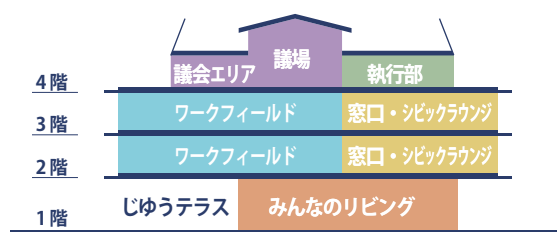


4F まちのこれからを 語り・導く場

- 議場を中心に議会エリアと執行部をワンフロアで構成
- 各機能のセキュリティと独立性を確保
- まち、公園、市民活動と向き合う全方位を見渡せる構成
- ハイサイドライトにより自然光を取り入れた議場、委員会室



階層構成



1階	2・3階	4階
じゅうテラス・みんなのリビング 日常の利用が可能な天井の高い開放的な空間 イベント時には公園と一体的に利用可能	窓口・ワークフィールドフロア 市民にとって行政が身近に感じ立ち寄りやすく、利用しやすい空間 を追求したフラットな空間	議会及び執行部フロア 議場を中心に、議会エリアと執行部エリアをワンフロアで構成 各機能のセキュリティと独立性を確保

まちとつながり、まちに開かれた庁舎

まちと文化をつなげる杜の中の庁舎

- **まちと文化の杜公園の風景に呼応する建築**
 - ・ウラをつくらない全方位に向けた**コンパクトな形態の庁舎**。
このやさしい形態の庁舎は、日常的な公園の憩いの場の風景に親和性を持たせます。



まちからの人の流れを導き、文化の杜公園へとつなげる、周辺施設と呼応した建築

● まちに開かれた大きな屋根（公園の東屋としての建築）

- ・1階は開放的なピロティの**大きな屋根のような空間**とし、駐車場から公園へ連続的なつながりをつくり、まちに開かれた庁舎をつくります。



● 市民の活動場所ともなるみんなのリビング

- ・みんなのリビングと一体利用可能な大会議室、階段と一体になったステージを計画し、様々な使い方ができる1階をつくります。



共に考え、共に創るプロセス

- ・みんなのリビングの使い方や、庁舎敷地拡張に伴う文化の杜公園の復旧後の姿について、市民の皆さんと考える全2回のワークショップを開催。

第1回 令和7年8月31日(日)
テーマ
「多目的スペースの使い方と公園利用・新庁舎と公園の関係」をみんなで考えよう

第2回 令和7年9月7日(日)
テーマ
それぞれの案の良さを話し合い、どちらかの案を選んで市民利用・市民活動の場としての使い方を話し合ってみよう

区切って使える会議室

発表の場となるステージ

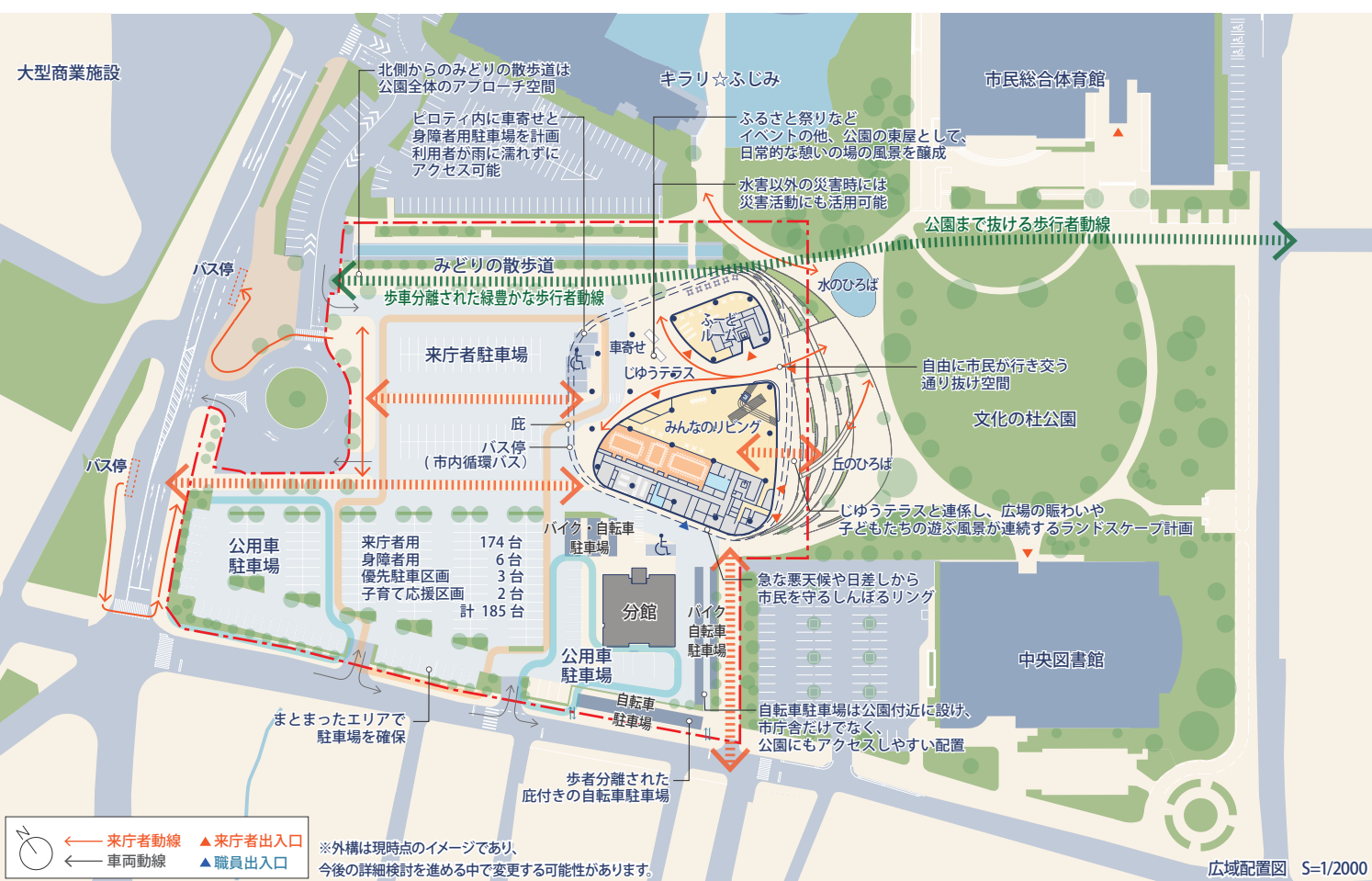
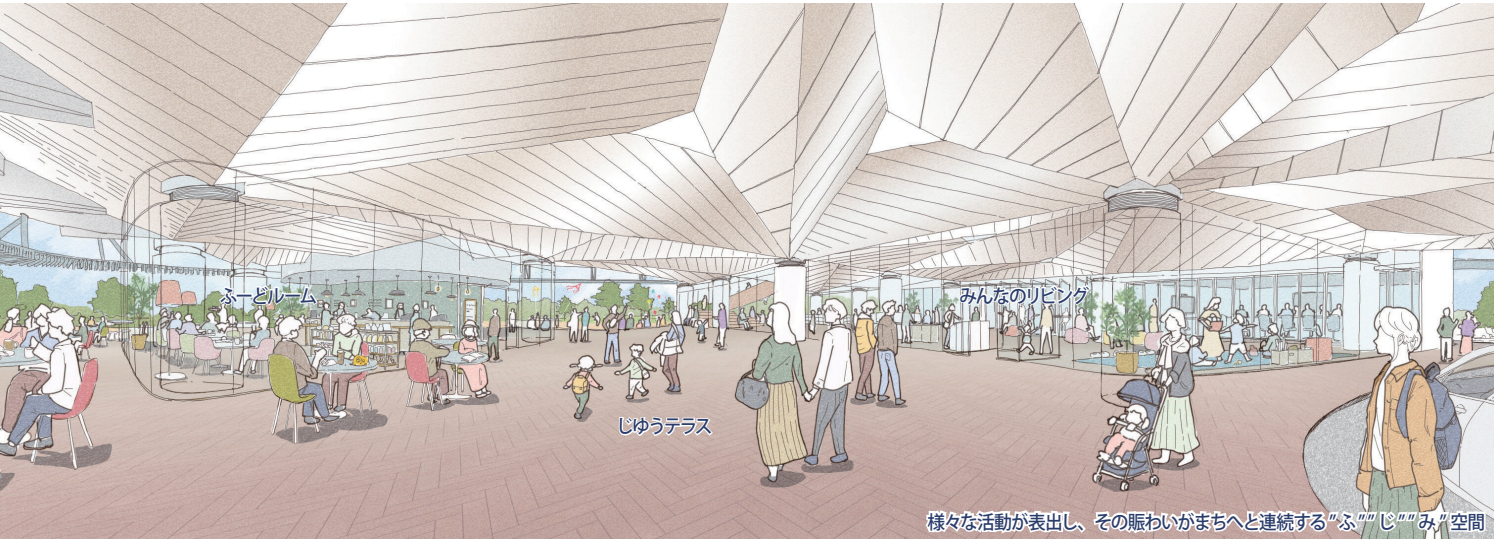
水のひろば

段々の丘のひろば

底下の休憩スペース

大きなスロープ

ワークショップから生まれたアイデア



多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン

- **誰にでもやさしいアプローチ**
 - ・駐車場からのアプローチに対しては、ピロティ内に車寄せと身障者用駐車場(5台)を計画し、利用者が雨に濡れずにアクセス可能な計画とします。
 - ・文化の杜公園側からのアプローチに対しては、2つのスロープを設置し、誰もが段差なく、安全にアクセスできるような計画とします。
 - ・サイン計画は来庁者が認識しやすい、目的の場所へ誘導されやすいデザインとします。
- **利用者の視点に立った使いやすいデザイン**
 - ・誰もが不自由なく利用できるバリアフリートイレを各階に設置します。バリアフリートイレにはユニバーサルシートの設置やオストメイト対応とし、利用者の安心・利便性に配慮します。
 - ・1階のみんなのリビングに近く、文化の杜公園側からアクセスしやすい位置に、ベビーケアルーム、授乳室、子どもトイレを設置し、子ども連れの方の利用しやすさに配慮します。
 - ・すべての人が使いやすいローカウンターを基本とし、丁寧な対応と対話を促す窓口計画とします。
 - ・キッズスペースを2階窓口付近に設け、小さな子ども連れの方でも安心して相談が行えるように配慮します。



シンプルでコンパクトな構成



● アクセスが明快な歩車分離を徹底した駐車場計画

- ・北側ロータリーからみどりの散歩道を計画し、**庁舎まで安全な来庁者動線**を計画します。公園利用も踏まえ、歩車分離を徹底します。
- ・来庁者駐車場台数 185 台（うち身障者用 6 台 / 優先駐車区画 3 台 / 子育て応援区画 2 台）を確保します。
- ・公用車駐車場台数 81 台を確保し、うち大型車両用の駐車スペース 8 台は既存分館周囲に確保します。
- ・公共交通機関(タクシー・バス) が庁舎近くまで寄りつける計画とします。
- ・自転車駐輪台数 321 台、バイク駐車台数 41 台を確保します。

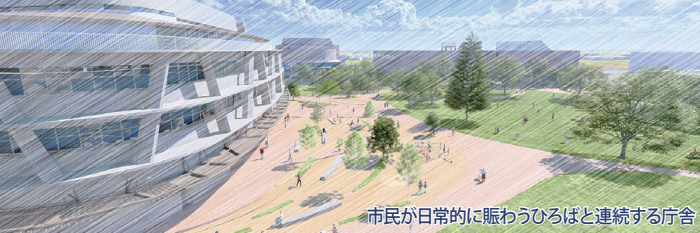
● 活動と居場所をリンクさせるふーどルーム

- ・みどりの散歩道とキラリ☆ふじみ、市民総合体育館へのアプローチに、飲食可能なスペース「ふーどルーム」を配置し、**市民交流と賑わいを創出する計画**とします。

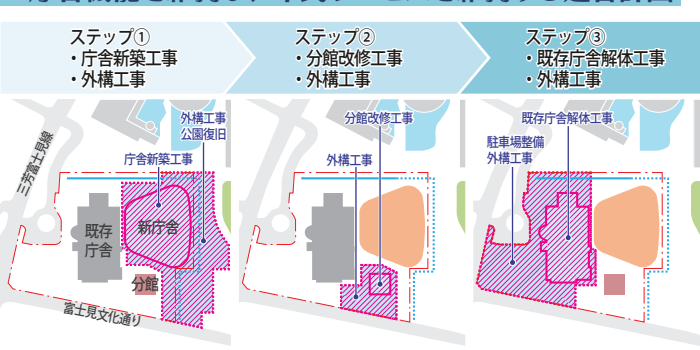


● 文化の杜公園と庁舎をつなげるランドスケープ計画

- ・文化の杜公園を中心とする、日常的な市民の賑わいの風景を連続させ、駐車場から公園へ続く、**まちとつながるランドスケープデザイン**とします。



● 庁舎機能を維持し、市民サービスを維持する建替計画



まちのリビングであり、自由なワークフィールドとなる庁舎

多様な働き方ができる執務プランニング

● 窓口と執務空間のカタチ

・窓口、執務を2層に集約し72 m x 58 m (約3,200㎡) の大平面の執務空間とし、職員の執務スペースである「ワークフィールド」と待合スペースなどの「シビックラウンジ」で構成するフラットでわかりやすい、市民に身近な市役所とします。

・執務エリアがひとつながりの一体的な構成で、組織構成の自由度の高いオフィスゾーニングを可能にします。

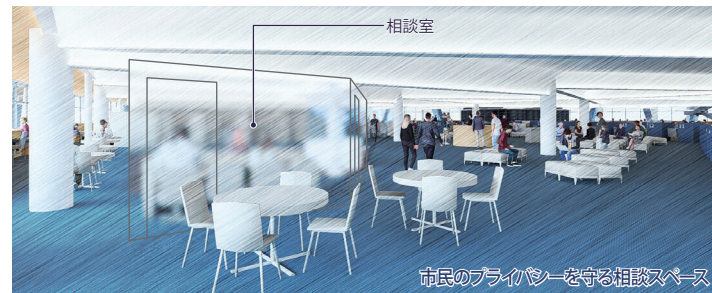
・すべての窓口を一望でき、視認性も良く、来庁者動線も短い、利便性の高い計画とします。



● 用件に応じた多様な窓口環境

・カウンター型の窓口のほか、テーブル型の窓口やプライバシーに配慮した相談室など、用件に応じた多様な環境を整備します。

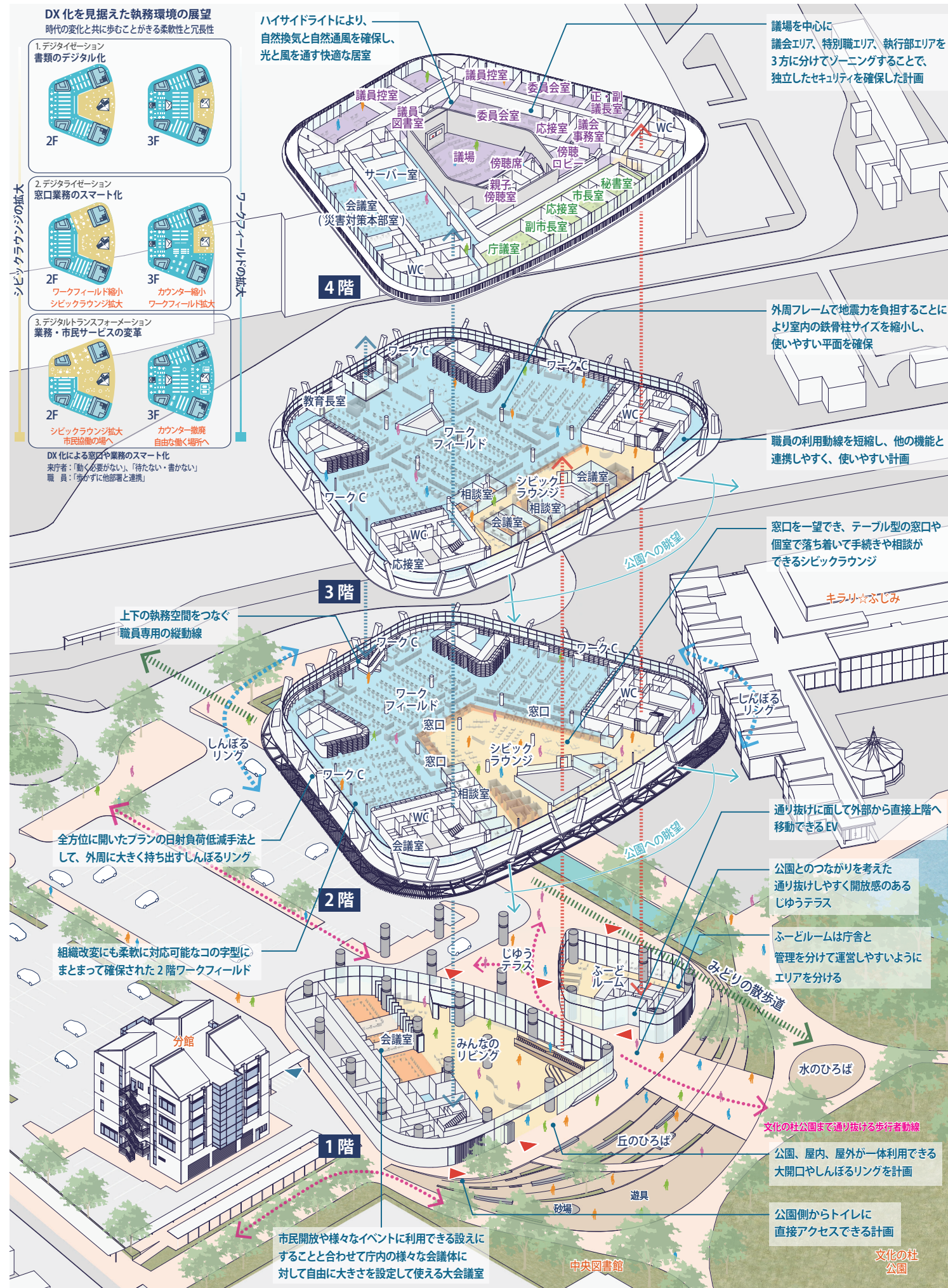
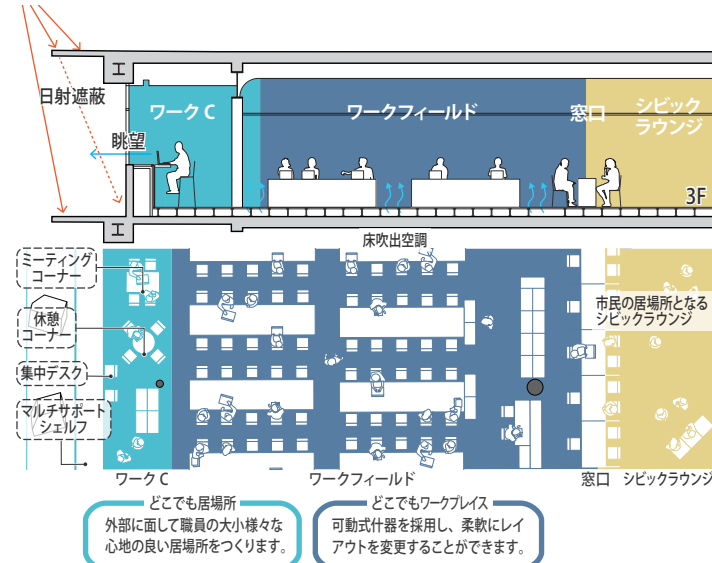
・プライバシーを大切に、安心感を持って落ち着いて相談できる窓口環境をつくります。



● 2つのワークプレイス 「ワークフィールド」と「ワークC」

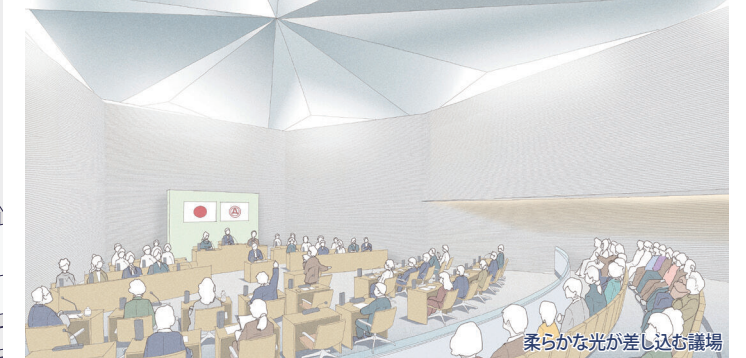
・「ワークフィールド」は、執務デスクやOA機器を配置する見通しがよくオープンな環境で、レイアウト変更にも柔軟に対応できます。

・「ワークC」はアルファベットのCのように窓際に配置するスペースであり、多くの打合せや作業などを支援するとともに、職員の自由な働き方を選択できるコワーキングスペースともなります。



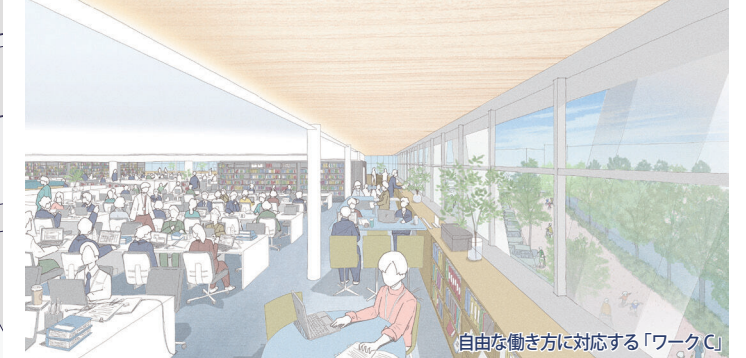
● 富士見市のこれからを話し合う「議場」

・最上階にある議場はハイスайдライトから柔らかな光が差し込み、明るい空間で富士見市のこれからを話し合う場とします。



● タテヨコのつながりをつくる「ワークC」

・多様な業務をサポートする場であると共に、職員同士の交流をつくり出す、組織がタテヨコに柔軟につながる場とします。



● 市民を分かりやすく2,3階の窓口へ案内する吹抜け

・文化の杜公園側の3層にわたる吹き抜けは、市民をわかりやすく2,3階の窓口へ案内します。

・1階のみんなのリビングは吹き抜けにより、開放的な空間とします。



みんなをつなぐ"ふ" "じ" "み" の空間

● 機能的で使いやすいみんなの居場所

・大会議室を1階に配置し、市民開放や様々なイベントに利用できる設えにすることと合わせて庁内の様々な会議体に対して自由に大きさを設定して使えるように計画します。

・「ふーどルーム」「じゅうテラス」「みんなのリビング」は一体利用が可能な設えとすることで、柔軟な利用が可能な、集まりたくなる、みんなの居場所をつくります。



主要用途 : 事務所
 構造 : 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造
 建築面積 : 約 3,800㎡
 延床面積 : 約 11,000㎡ (+ピロティ約 1,600㎡)
 階数 : 地上 4 階
 最高高さ : 約 24.4m



富士見市新庁舎整備事業について

現在の庁舎は、昭和 48 年に建てられ、市民サービスを提供する上での拠点施設として、その役割を担ってきましたが、竣工から 50 年以上の時間が経過しているため、建物の老朽化をはじめ、狭あい化や機能の分散化など、様々な課題を抱えています。

こうした状況を踏まえ、本市では、“今後の庁舎のあり方”について検討を進めてきました。令和 3 年度には、富士見市庁舎整備検討審議会からの答申を踏まえ、新庁舎を整備することを市の方針として決定し、新庁舎整備に向けた基本方針となる「富士見市庁舎整備に関する基本方針」を令和 4 年 3 月に策定し、令和 6 年 3 月には新庁舎の整備に向けた具体的な計画となる「富士見市新庁舎建設基本計画」を策定しました。

令和 12 年 1 月の新庁舎供用開始に向け、「富士見市新庁舎建設基本計画」で定めた新庁舎整備の基本的な考え方や新庁舎の導入機能などを基に新庁舎建設基本設計を進めてきました。

概算事業費

項 目	概算額
調査・設計・監理費	約 5.2 億円
建築工事費	約 97.6 億円
外構等その他工事費	約 23.9 億円
解体費	約 11.4 億円
什器・備品費、移転費	約 7.7 億円
ネットワーク整備費等	約 12.3 億円
合 計	約 158 億円

財源

項 目	想定額
積立金	約 37 億円
地方債	約 107 億円
一般財源等	約 14 億円
合 計	約 158 億円

※基本設計時点の財源想定額です。今後詳細検討を進めていく中で、国・県補助金等の活用などを検討していきます。

(注記) 基本設計時点の建設単価等を用いた想定金額であり、実施設計の実施や、建設に係る物価上昇、労務単価の上昇などにより変動します。

コスト縮減の取組

安全性や利便性、将来の拡張性を損なうことなく、機能や仕様を精査し合理的なコスト縮減等に取り組んだ結果、約 6.1 億円の建設コストを縮減しました。

- ・ 5 階建てを 4 階建てに変更することで、建築、構造、設備工事を縮減
- ・ 床吹き出し空調の採用により、快適性と省エネ性を確保しながら労務費が高いダクト工事を削減
- ・ 屋外機械置場をコンクリート床、外周部を金属屋根とし建物重量の軽量化により構造躯体を縮減 など

工事スケジュール等

	R7 年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13
設計							
水路移設工事							
新庁舎建築工事							
既存分館改修工事							
既存庁舎解体工事							
外構工事							

令和 12 年 1 月
新庁舎供用開始予定

みんな笑顔☆ふじみ 【問合せ】新庁舎整備室
富士見市 TEL:049-265-8311
 FAX:049-251-2726



富士見市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。